産業建設常任委員会記録

令和7年2月25日

【開催日】 令和7年2月25日（火）

【開催場所】 第1委員会室

【開会・散会時間】 午前9時～午後1時45分

【出席委員】

委員長	藤岡修美	副委員長	恒松恵子
委員	中島好人	委員	中村博行
委員	福田勝政	委員	宮本政志
委員	矢田松夫		

【欠席委員】

なし

【委員外出席議員等】

議長	高松秀樹		
----	------	--	--

【執行部出席者】

水道事業管理者	川地 諭	水道局副局長兼施設維持課長	伊東修一
水道局次長兼工事管理課長	江本浩章	水道局次長兼総務課長	岡 秀昭
水道局総務課主幹	矢田 創	水道局総務課主査兼財政係長	伊藤清貴
水道局業務課長補佐	角田達也	水道局工事管理課技監	篠原智士
水道局施設維持課技監	羽根敏昭	水道局浄水課長兼高天原浄水場長	平野宏明
水道局浄水課主幹兼高天原浄水場電気第一係長	山田智則	水道局業務課主査	堀米慎一
建設部長	井上岳宏	建設部次長兼都市計画課長	高橋雅彦
下水道課長	中村景二	下水道課課長補佐兼計画係長	藤本英樹
下水道課主査兼維持係長	金田 健	下水道課主査兼野田水処理センター所長補佐兼山陽水処理センター所長補佐	小路弘史
環境課主査兼下水道課主査	原野浩一	下水道課管理係長	岡村厚志
下水道課管理係主任	原田尚枝	下水道課計画係主任	藤岡浩史
下水道課維持係主任	勝根 郷	経済部長	桶谷一博
公営競技事務所長	木村清次郎	公営競技事務所副所長	大下賢二
公営競技事務所主査	益富孝重		

【事務局出席者】

局長	石 田 隆	議事係書記	末 岡 直 樹
----	-------	-------	---------

【審査内容】

- 1 議案第6号 令和6年度山陽小野田市水道事業会計補正予算（第1回）について
- 2 議案第7号 令和6年度山陽小野田市工業用水道事業会計補正予算（第3回）について
- 3 議案第8号 令和6年度山陽小野田市下水道事業会計補正予算（第3回）について
- 4 議案第4号 令和6年度山陽小野田市小型自動車競走事業特別会計補正予算（第4回）について

午前9時 開会

藤岡修美委員長 おはようございます。ただいまから、産業建設常任委員会を始めます。本日の審査日程につきましては、お手元に示してあるとおりに進めてまいります。まず、議案第6号令和6年度山陽小野田市水道事業会計補正予算（第1回）について、執行部の説明を求めます。

川地水道事業管理者 それでは、議案第6号令和6年度山陽小野田市水道事業会計補正予算（第1回）の概要について御説明いたします。今回の補正は、主に給水収益、人件費、建設改良費等の諸経費について、決算を見込んでの調整であります。補正予算書1ページ、2ページの説明をいたします。第2条は、業務の予定量について記載のとおり補正しております。第3条の収益的収入であります。上水道営業収益において給水収益は、年度中途までの実績を勘案の上、減額をしております。収入合計は384万3,000円減額補正し、16億3,469万7,000円となります。支出については、上水道営業費用中の修繕費、資産減耗費等を減額したものの、職員人件費、動力費、委託料、減価償却費等を増額しました。結果、支出合計で4,013万4,000円増額補正し、

14億8,714万8,000円としました。次に、第4条資本的収支を御説明します。下段の支出については、建設改良費において、工事箇所変更・工法変更等により支出総額で8,609万3,000円減額補正し、総額11億5,996万2,000円としております。これら工事等の原資となる収入につきましては、下水道会計の工事負担金及び国庫補助金を994万6,000円増額補正し、4億6,904万7,000円としております。結果として生じた差引不足額については、第4条本文のとおり、損益勘定留保資金だけでは不足しますので、積立金を3億2,073万3,000円取り崩して補填する予定としております。第5条は、債務負担行為の補正としては、期間変更を行うものです。第6条は、流用禁止経費として、職員給与費の補正額を計上しております。第7条は、他会計からの補助金として一般会計補助金額を計上していません。そのほか詳細につきましては、後ほど、総務課長から説明させます。続きまして、有機フッ素化合物、総称をPFASと言いますが、その代表例であるPFOS及びPFOAの水質検査結果について御報告します。PFASとは、炭素とフッ素が結合した化合物であり、熱に強い、水や油を弾く、燃えにくい、汚れを防止するなどの性質を有することから、フライパンの表面加工、撥水剤や泡消火剤などに用いられてきました。その一方で、自然界では分解されにくく、河川水や海、土壌に堆積することで、環境中に長期間残存することから、現在、国内外において製造、使用等が規制されています。このPFOS及びPFOAにつきまして、昨年10月に高天原浄水場及び鴨庄浄水場の原水、浄水を採取し、水質検査を行った結果、国の定める暫定目標値を大幅に下回っており、本市水浄水の安全性が保たれています。

岡水道局次長兼総務課長 それでは、既決の当初予算との増減比較で御説明いたします。まず、補正予算書17ページを御覧ください。附記欄に主な増減理由を記載しております。資料としてお配りしています、A4の資料の1/2ページを並べて御参照ください。収益的収入では、有収水量が当初推計の99.3%、前年度実績比はさらにマイナス1.2%の見

込みとなり、給水収益を大きく下方修正しております。上水道営業収益では、負担金として旧簡易水道施設の修繕費相当の一般会計繰入のほか加入金、預金利息等を増額補正しております。長期前受金は、非現金性の収入です。収入合計は384万3,000円減の16億3,469万7,000円を計上しております。続きまして補正予算書18ページの支出です。A4資料で性質ごとにまとめておりますので、こちらで説明します。人件費は2,099万5,000円増額しています。国家公務員に対する令和6年度人事院勧告に沿って制度を変更した上で、決算を見込み、増額補正しております。給与費明細書は補正予算書10ページ以降に載せております。後ほどお読み取りください。その他の支出は、動力費・委託料・減価償却費等を増額補正します。このうち委託料は鴨庄浄水場の堆積粘土の処分費を1,650万円増額しております。修繕費、資産減耗費の減額は、工事の延期又は内容変更が主な理由となります。課税支出予算の減額補正に伴い、仕入れ控除が減りますので、消費税予算額は増額しております。以上、支出合計は4,013万4,000円増の14億8,714万8,000円としております。税処理後の損益は、補正予算書13ページの予定損益計算書のとおりです。予定損益計算書の下から4行目、当年度純利益は7,584万4,000円となりますが、これには、非現金性の収入である長期前受金戻入と特別利益の5,464万7,000円が含まれております。加えて、その下の「その他未処分利益剰余金変動額」は、資本的収支不足額補填に使用する積立金取し崩額の再掲額ですので、当然キャッシュが発生するものではありません。次に補正予算書21ページを御覧ください。下段の資本的支出のうち建設改良費の補正につきましては、工事の箇所変更・工法変更等が減額補正の主な原因です。支出総額では8,609万3,000円の減額補正です。これら建設投資の財源となります資本的収入は、長期前受金のうち負担金、補助金の増額補正です。負担金は下水道関連の移設補償の負担金を691万5,000円増額し、補助金では施設台帳及び料金システム導入の一部予定変更に伴い国庫補助を303万1,000円増額補正します。収入総額では994万6,000円の増額補

正としております。前年度建設改良繰越分1億1,714万5,000円の支出を含めて、資本的収支の差引不足額は、8億806万円になります。この補填財源として、建設改良積立金を3億2,073万3,000円取り崩して対応します。補正予算書9ページのキャッシュ・フロー計算書を御覧ください。3の財務活動において、前年度繰越分を含め企業債の新規借入で3億2,450万円を調達しながらも、下から3行目の資金増加額では会計外に約2.9億円の現金が流出する予定です。ただし、公営企業の未収・未払等の変動額は、決算日後約1か月程度でほぼ精算されます。これらの影響を除外しキャッシュ・フロー収支と資本的収支のトータルの)事業活動に由来する資金増減を「正味CF(キャッシュ・フロー)」として試算した結果がA4資料1/2ページ右端の帯です。記載のとおり2億4,488万9,000円の資金が企業外に流出する予定です。以上の予算執行による結果が、補正予算書15、16ページの貸借対照表に表れております。なお、貸借対照表は6月議会で報告済みの前年度建設改良繰越事業分の1億1,714万5,000円を含めて作成しております。右手貸方の7項(2)の利益剰余金合計は9億666万5,000円ですが、このうち当年度未処分利益剰余金は、注⑦の表記のとおり現金の裏づけのない利益である3億2,073万3,000円が含まれておりますので、これを除いた5億8,593万2,000円が内部留保資金となります。正味キャッシュ・フロー年度決算から約2億4,500万円減少します。企業債残高は固定負債企業債と流動負債企業債の合算45億9,639万9,000円になります。これは、年間給水収益の33.4%に相当します。前年度から2,900万円余りの縮減ですが、代わりに多額の自己資金が流出する予定です。以上、水道事業会計補正予算の説明とさせていただきます。

藤岡修美委員長 執行部の説明が終わりましたので、質疑に入りたいと思います。補正予算書のページに沿って質疑を受けたいと思います。1ページ、2ページで局長から全般的な説明がございましたけれども、よろしいですか。

中村博行委員 有収水量がかなり減額補正されている要因を教えてください。

川地水道事業管理者 令和6年度につきまして、もともと一般家庭の13ミリメートルにつきましては、2%前後の減収を見込んでおりましたので、その辺については今回の補正でもいらっていません。一番今回影響を受けているのは、50ミリメートルぐらいです。どちらかという、50ミリメートルを使われる事業者は、建設業とか飲食業者とか多岐にわたりますが、この水量がかなり減ってきている要因としていろいろ分析するんですけど、なかなか地域経済、社会経済が思うように元どおりになっていない。それから、事業主の節水意識の向上もあるのではないかというのをございます。そういったところから、皆さんかなり使用水量を抑えておられるっていうところも見受けられますので、この辺りが今回響いてきているのかなと思っております。

藤岡修美委員長 よろしいですか。ほかに、1ページ、2ページ。第5条で、後で出てくるかも分からないですけども、料金システム構築運用事業業務委託の債務負担行為の期間を延ばされた理由は何ですか。

川地水道事業管理者 この料金システムというのは、水道DX推進事業というのがございまして、今回は5年間でいろいろなシステム改良をやっております。その第一弾として、料金システムの構築と5年分の管理運営費を債務負担行為として組みました。若干、構築費の関係で3か月か4か月ほど延びましたので、その分、1年分ほど年度が延びたと。ですから、構築費は今年度中にやったんですけども、残りの管理運営費で3か月、4か月の先送りになりましたので、その分で1年間ほどずれてしまったということをございます。

矢田松夫委員 第4条の関係で、建設改良費の積立金を補填するということは、不足が生じたから補填するという捉え方でいいんですか。

岡水道局次長兼総務課長 第4条、いわゆる建設改良に関わる収入支出ですけれども、こちらについては、会計の制度上、必ず赤字が想定されております。第3条の収益的収支でもうけたお金で第4条の不足を補填するという制度設計になっておりますので、基本的には補填するという形は必ず出てきます。その補填といたしましては、第3条予算の支出の中にある減価償却費が非現金支出になりますので、そちらでまず補填をしていくと。それで不足が生じた場合には、過去の利益であります建設改良積立金であるとか減債積立金であるとか、こういった過去のストックを徐々に切り崩して補填していくという、もともとの公営企業会計の制度設計になっております。

矢田松夫委員 利益を取り崩すというふうに理解をしました。次の浄水場の建設改良費でかなりの減がありますが、これは工事の延期とか中止とか、そういうのが表れたと捉えていいんですか。

江本水道局次長兼工事管理課長 いろいろ要因もありますけど、一番主なものは、今年度につきましては、結果的に、改良工事における既設管、要は使わなくなった管の撤去費の不用がかなり生じました。この理由につきましては、設計段階で既設管の撤去が不可能ということがよくあります。今年度それが7件ほどございまして、対応としましては、撤去しない分はモルタルの注入を行って、陥没の防止策を取るわけですが、その費用が大幅に減額になったということでございます。改良工事の施工延長につきましては、当初の予定を若干上回る工事の振替等で若干上回るほどの施工はしております。

藤岡修美委員長 よろしいですか。ほか、1ページ、2ページ、よろしいですかね。（「はい」と呼ぶ者あり）3ページ、第7条、いいですか。

矢田松夫委員 第7条は毎年この児童手当の負担金というのが出るんですよね。

過去のを見ると、ここずっと出てくるんだけど、違いますかね。

岡水道局次長兼総務課長 毎年、一般会計から繰入れを頂いております。

中島好人委員 その上がかなり増額されて（聴取不能）

岡水道局次長兼総務課長 その上が旧簡易水道の維持管理補助金でございます。令和3年度から上水道に統合いたしましたけれども、そちらを統合するときに、統合時に切り替えた施設については、今後、水道局のほうの費用で維持し、古いまま引き受けた施設につきましては、その都度、修繕費を一般会計のほうから繰り入れていただくという約束でした。このたび、大幅な改修をしましたので、一般会計にお願いして、増額補正をさせていただいたというところになります。

藤岡修美委員長 よろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）それでは、予算書6ページ、7ページ、実施計画。

恒松恵子副委員長 7ページですけど、減価償却費で1,000万円以上の補正が出ています。これは大体当初に分かりそうなものだと思うんですが、何か誤りがあったとか法的な制度が変わったとか、理由があれば教えてください。

岡水道局次長兼総務課長 御指摘のとおり、当初段階からそれほどずれはないはずなんですけれども、積算を一部ミスしたところがございまして、それを補正したという形でございます。

恒松恵子副委員長 来年度は、あまり補正は起こらないと考えておいてよろしいですか。

岡水道局次長兼総務課長 当初段階で組むものについては正確を期して積算す

る予定なんですけれども、決算の時点で取得した資産が年度内に取得できなければ翌年度に減価償却は発生しませんので、予定といたしましては、減ることはありまして増えることはなかなかないと考えております。

藤岡修美委員長 ほかにはいいですか。6、7ページ。（「はい」と呼ぶ者あり）8ページ、資本的収入及び支出。収入で補助金303万1,000円増えていますけども、これは一般会計からと国のDX推進事業ですか。これについて説明をお願いできますか。

岡水道局次長兼総務課長 8ページの備考欄に書いてあります補助金につきましては、一般会計分の変更はございません。こちらにつきましては、旧簡易水道のときに借り入れた企業債の元金に当たるものです。先ほど管理者も説明申し上げました上下水道のDX推進事業、主に電算システムを導入する費用については、まだ本格稼働には至っておりませんが、その年度割額の変更に伴って令和6年度にボリュームを若干増やしたという形で、令和6年度、7年度の割合を若干令和6年度に寄せたという形で300万円程度増額しております。

藤岡修美委員長 8ページ、ほかはよろしいですかね。ちなみに、この上下水道DX推進事業というのは、枠は国土交通省ですか。

川地水道事業管理者 申請したときは厚生労働省でした。もう既に国土交通省に変わっています。

藤岡修美委員長 ほかはよろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）では、9ページ、キャッシュ・フロー計算書はよろしいですかね。（「はい」と呼ぶ者あり）10、11、12ページ、給与費明細書はよろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）それでは13ページ、予定損益計算書。

中島好人委員 先ほども丁寧に説明がありましたが、下から4番目です。当年度純利益が7,500万円とありますけども、要するに純粋に7,500万円利益が上がったと捉えていいんでしょうか。説明をお願いします。

岡水道局次長兼総務課長 こちらの予定損益計算書自体は、いわゆる第3条予算、収益的収支の差引きのみという形なので、その意味からいけば、単純に7,584万4,000円の純利益が生まれたということですが、先ほど、ほかの委員からも御質問いただいたとおり、こちらでもうけを生んで、将来の不足に備えるという形の制度設計になっておりますので、必ず利益を生むような予算なり決算なりにしなければならぬということでございます。

藤岡修美委員長 よろしいですか。ほかに13ページ、よろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）次が15、16ページ、予定貸借対照表。

中村博行委員 企業債が若干減って、なおかつ内部留保資金が大きく減ってきた辺ですね。やっぱり今後の見通しにおいて、このまま内部留保資金が枯渇するようなことがあってはいけないと思うんです。そのために水道料金を上げたということでしょうけども、見通しとして、改良費が1年で8億7,000万円ぐらいするところが、今年度は8,000万円ぐらい減額したということで、この影響も多分あると思います。それを含めて、やはり8億7,000万円で行っていくのと同時に、この内部留保資金がどうなっていくかということについて、どういう見通しでおられるのか教えてください。

川地水道事業管理者 まず水道料金の改定時に御説明させていただいたのは、水道料金は上げますけども、まず内部留保資金を充当して減らしていきますので、このまま内部留保資金の額が同額、もしくは増額することはあり得ません。減っていきます。それを8年間ぐらいもたせて、次の料金改定時までには何とか内部留保資金はもたそうと思っています。ただ、

今の時点で人件費の高騰が出てきていますし、また建設物資、建設単価が非常に上昇してきていますので、計画より非常に厳しくなってくるのかなと思っています。それとともに、うちの財政計画では8億7,000万円の数字がずっと続いておりますけど、もう皆様も御存じのとおり、老朽化が進んでおまして、国のほうが上下水道の耐震化計画をつくって、積極的にやりなさいという方針を打ち出しております。したがって、また令和7年度予算のときにも御説明申し上げますけども、実は8億7,000万円以上の事業費を組んでおります。これがずっと続くかどうかというのがございますけども、そういった中で建設事業はかなり増額してきますし、片や収益事業は先ほど言いましたようにちょっと予定より減ってきていますので、非常に苦しいところに来ているのかなと。今後、数年間、建設事業を増やす代わりに、起債の充当率を若干調整していくかどうかということも今いろいろ検討しております。なかなか非常に経営が苦しい中で、かといって水道料金も、上げ高もやっぱり調整していかなくやなりませんので、何とか耐震化をしつつ、経営もぎりぎりのところで、やっていけるように努力をしている最中です。

宮本政志委員 今の中村委員の質疑はすごく重要だと思います。昨年の令和5年度の補正予算第1回するときも同じように出ているんですけど、今回の令和6年度の企業債2,900万円減はどういうふうに計算していますか。昨年は約2,300万円マイナスの根拠はどうなんですか。

岡水道局次長兼総務課長 企業債を借り入れる場合には、例年6月の段階で、起債を起こしていかという形で県のほうから同意を受けて、それから工事に着手いたします。年度の途中でその工事に変更があったり中止があったり、もしくは中止の代わりに工事を起こしたりという形になりますと、借入れの対象から外れてしまいますので、結果、この2,900万円というのは、このたび令和6年度につきましては工事の振替が結構ありましたもので、当初手を挙げていた事業につきましては、ほぼ満額に近いぐらいの形で借入れを行っても、結果的に2,900万円残高が

減ったということでございます。

宮本政志委員　そうすると、内部留保金の額のところの企業債ってというのは、何か理想的な割合ってあるんですか。

岡水道局次長兼総務課長　基本的には、内部留保資金は不測の事態、例えば、災害等に備えて、1年分の給与収益相当を留保するのが理想とは言われており、13億円、14億円という金額になりますけれども、ただ、そういった不測の事態に備えるという形が取れる事業体は少ないです。と申しますのが、施設更新も十分行って、うちのように老朽管が多いような状況も解消した上で、なお、余裕がある場合には不測の事態に備えて内部留保をプールするというのはあり得ますが、しなければならない工事を取りおいて手元に現金を置いておくという形は、本末転倒といえますか、その分工事を進めていったほうが事業の維持、安全という面からすれば、優先すべきものであると思っております。ですから、本市の水道事業におきましては、内部留保資金は積極的に工事の資金として充てていくということを料金改定の際の議会において説明させていただいた次第であります。キャッシュを手元に置いていても、インフレでどんどんお金の価値が下がっていきますので、しなければならない工事に充てていくということでございます。なお、補正予算書の16ページを御覧いただいたらと思うんですけれども、運転資金につきましては、主には第3項(2)の引当金がございます。退職給付引当金、修繕引当金が合計で7億6,000万円ほどございますので、年度途中の運転資金は、例えば工事契約いたしますと4割の前払金を支払いますけれども、こちらの引当金を一部一時的に借りて、決算までに返すような資金の運用になろうかと思えます。今後、内部留保資金がゼロになった場合でも、運転資金については今の7億円は確保できておりますので、資金ショートすることはないということでございます。

宮本政志委員　すごく丁寧な説明で、よく分かります。これは令和4年度、5

年度、6年度を比較していくと分かりやすいんですけど、審査って細かいところに目が行ってしまうものです。要は、私も議員として少し反省しないといけないかなと思うのが、水道料金を上げたけど、やっぱり減免措置でなるべく市民の負担をとということで、何年間かやったよね。でも、そもそも30年ぐらい上げていなかったんだけど、令和4年度、5年度、6年度と見ていると、水道料金っていうのは、やっぱりある程度上げていかないともうもたない。今の課長の説明でも、それは内部留保の理想があり、ゼロというわけにいかないよね。局長、その辺りはどう考えていますか。料金のことをちょっと言っていましたよね。

川地水道事業管理者 おっしゃるとおり、平成2年以来、上げていなくて、その分を事業していかなきゃなりませんので、起債等々で、恐らく財源措置してきたので、先ほどうちは360万円とか言いましたけど、380万円とか300万円、現在高ですね、やっぱり起債の累計額が高かった。でも、それは落としていかないとはいけません。そういったことがあるので、今後は料金改定時にも御説明申し上げましたけども、4年ごとには料金改定、まあ料金改定の前に収支の検証をして、やっぱり10年、15年先の収支を定めなさいよと国は言うておりますので、私ども10年、20年、それから4年、8年の計画をつくって、計画的な水道料金の改定をしていかなきゃならないなと思っております。そういった意味で、大変申し訳ありませんけども、市の水道料金については、今後とも定期的な見直しをせざるを得ないかなと思っております。それと水っていうのは命に関わるもので絶対なくてはならないものです。将来的にもやっぱり負担をあまりかけ過ぎると将来の子供たちにかなり負担が残りますので、やはり現在の方々にも負担はある程度してもらわなければなりません。公平公正的なものの見方をしていないと厳しいかなと思ってます。

藤岡修美委員長 ほかはよろしいですか。それでは17ページ、収益的収支明細書の収入、よろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）18、19、

20ページ、収益的収支明細書の支出、よろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）21、22ページ、資本的収支明細書、よろしいですか。

（「はい」と呼ぶ者あり）終わりですね。それでは、資料を含めて、よろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）以上で質疑を終わります。これより、討論を行います。討論はありますか。（「なし」と呼ぶ者あり）討論なしと認めます。これより議案第6号令和6年度山陽小野田市水道事業会計補正予算（第1回）について、採決をいたします。本件に賛成の委員の挙手を求めます。

（賛成者挙手）

藤岡修美委員長 全員賛成により本件は可決すべきものと決定いたしました。

ここで、換気のため10分休憩して、10時再開といたします。

午前9時50分 休憩

午前10時 再開

藤岡修美委員長 それでは委員会を再開いたします。議案第7号令和6年度山陽小野田市工業用水道事業会計補正予算（第1回）について執行部の説明を求めます。

川地水道事業管理者 それでは、議案第7号令和6年度山陽小野田市工業用水道事業会計補正予算（第1回）の概要について御説明をいたします。補正予算書では、23ページ以降となります。今回の補正は、職員給与等の諸経費について、決算を見込んでの調整であります。第2条の収益的収支であります。収入では預金利息と児童手当負担金を増額し、収入総額を163万2,000円増の2億8,619万1,000円としております。支出については、営業費用は今年度中途までの実績を参考に、

人件費、負担金、修繕費、消費税等を増額する一方、動力費を大幅減額しており、支出総額を810万8,000円減の2億5,339万7,000円としております。第3条では流用禁止経費として、職員給与費の補正を記載しております。第4条は、一般会計補助金の補正です。なお、詳細につきましては、総務課長から説明させていただきますので、よろしくお願い致します。

岡水道局次長兼総務課長 それでは、詳細について御説明いたします。補正予算書35ページ、収益的収支から御説明いたします。なお、A4の資料2/2ページも並べて御覧ください。まず、収益的収入のうち一般会計からの児童手当負担金を4万円増額しております。そのほか、営業外収益の預金利息を実績に沿って増額しております。以上、収入合計は163万2,000円増の2億8,619万1,000円としております。収益的支出では職員人件費を269万7,000円増額しております。詳細については給与費明細書に記載しておりますので、後程お読み取りください。動力費は年度中途までの実績から大幅減とし、負担金は上水工水での各種共用システム利用に伴う上水道会計への支出を増額しております。そのほか、修繕費はポンプオーバーホールの部品資材の値上がりに伴う増額となります。支出総額の減少で仕入れ控除額も減少し、消費税は増額となる予定です。ほかはお読み取りください。以上、支出合計は810万8,000円減の2億5,339万7,000円としております。税処理後の損益は補正予算書31ページの損益計算書のとおりです。下から4行目、当年度純利益は3,399万4,000円となります。資本的収支については、補正はありません。補正予算書28ページのキャッシュ・フロー計算書を御覧ください。下から3行目の資金増加額では、今年度4,562万6,000円の資金が増加することになります。これから未収・未払等の変動額の影響を除外して、通年の事業活動に由来する資金増減を「正味CF（キャッシュ・フロー）」として試算した結果がA4資料右端の帯です。記載のとおり新たに4,132万円の資金が会計内に留保される予定です。以上の予算執行による結果

が、補正予算書 33、34 ページの貸借対照表に表れております。右手貸方の 7 項（2）の利益剰余金のうち利益剰余金合計額は 9 億 3,185 万 9,000 円となっており、上水と異なり全て現金の裏づけを持っております。加えて未使用分の損益勘定留保資金が会計内に留保され、結果、期末の内部留保資金は 9 億 4,577 万 1,000 円となる予定です。対して企業債残高は、固定負債と流動負債の企業債の合計が 4,446 万 8,000 円に過ぎないため、実質無借金経営となります。以上、工業用水道の補正予算の説明とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

藤岡修美委員長 執行部の説明が終わりましたので、ここで委員の質疑に入りたいと思います。補正予算書 23 ページです。全般的な説明がありましたが、資料も含んでいいですよ。

宮本政志委員 先ほど、収益的収入の説明の中で、修繕費で、部品資材の値上がりがと言われましたよね。どういったものが、どのように上がったかというのをもう少し詳しく聞いていいですか。

平野水道局浄水課長兼高天原浄水場長 修繕費の増額理由としましては、工水ポンプの分解整備を行うに当たり、部品等の精密機器の高騰によりまして、増額となりました。

宮本政志委員 精密機械っていうのはどういったもので上がるんですか。今、値上がりと言って、何か便乗値上げみたいに、本当は上がってないんだけど業者のほうも上がったと言うからというのでは困るので、どういうものを使っていますか。

平野水道局浄水課長兼高天原浄水場長 精密機械の部品を細かく言いますと、制御盤であったり、主軸等の部品について単価が上昇し、当初と比較すると高額となりまして、今回増額としております。

宮本政志委員　そういう値上がり時には、他社からも見積りを取って、本当に正しい値上がりをしているかという確認は当然されているんですよね。

平野水道局浄水課長兼高天原浄水場長　当然最初に見積りを取っております。ただ見積りを取りまして、予算化したときは昨年の見積りで、実際、年を明けて急激に高騰したということで、今回増額となっております。

藤岡修美委員長　よろしいですか。ほか23ページよろしいですか。

中村博行委員　35ページの、宮本委員が言われたすぐ下の動力費の備考欄には使用料の減ということで、ここで大きな減額をされているんですけど、さっきの説明となんか違ったような気がしたんで、もう1回お願いします。

平野水道局浄水課長兼高天原浄水場長　動力費の減額理由につきましては、田辺製薬の契約総水量に対して約7割の見込みとなることから、今回下方修正しております。1日当たりの契約が1万2,000トンですが、実際には70%ぐらいであり、当初予算は契約量にて計上し、予算化いたしました。使用量が例年どおりということで今回、下方修正しています。

藤岡修美委員長　よろしいですか。一応、補正予算書に戻って26、27ページよろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）28ページ、キャッシュ・フロー計算書。29、30ページ給与費明細書、よろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）31ページ、予定損益計算書はいいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）33ページ、34ページ予定貸借対照表はよろしいですか。

矢田松夫委員　33ページの未収金で、3月調定分を含むと書いてありますが、

実際引いてみると1万5,000円であると。細かい数字ですが、実際に工水でも未収金は発生するんですかね。

岡水道局次長兼総務課長 こちらのほうの未収金は、料金収入だけではございません。一般会計の補助金とか、いろいろやり取りをしている金額で、決算時点で未収として計上予定する分につきましては、未収金に入っております。

藤岡修美委員長 よろしいですか。ほかにいいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）35ページ、36ページ、収益的収支明細書、先ほど送水ポンプの分解整備と使用料の減の質問がありましたが、ほかによろしいですか。資料総括的にないですか。質疑はいいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）以上で質疑を終わります。討論はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）討論なしと認めます。それでは、議案第7号令和6年度山陽小野田市工業用水道事業会計補正予算（第1回）について採決をいたします。本件に賛成の委員の挙手を求めます。

（賛成者挙手）

藤岡修美委員長 全員賛成により本件は可決すべきものと決定いたしました。ここで、職員入替えのため、暫時休憩といたします。

午前10時15分 休憩

午前10時24分 再開

藤岡修美委員長 それでは委員会を再開いたします。議案第8号令和6年度山陽小野田市下水道事業会計補正予算（第3回）について執行部の説明を求めます。

中村下水道課長 それでは、議案第8号令和6年度山陽小野田市下水道事業会計補正予算（第3回）について御説明いたします。今回の補正は、落札減による委託料の減額、決算を見込んだ動力費及び企業債利息の減額、並びに社会資本整備総合交付金の内示に係る事業費の減額調整及び国の1号補正予算における国庫補助金の配分に伴い事業費の調整を行うものです。補正予算書の1ページを御覧ください。まず、第2条の業務の予定量の補正ですが、（4）主要な建設改良事業について、事業ごとに変更しています。詳細については後ほど説明いたします。次に第3条、収益的収入及び支出の補正について説明いたします。収入については1款下水道事業収益、2項営業外収益を1,669万円減額し、11億8,632万円とします。支出については、1款下水道事業費用、1項営業費用を1,269万円減額して、17億8,075万7,000円に、2項営業外費用を400万円減額し、1億4,700万円とします。それでは、12ページをお開きください。収益的収支の支出内訳から説明します。1項営業費用、1目管渠費については、入札減により不明水調査委託料を200万円減額します。3目処理場費については、入札減により施設等維持管理委託料を500万円減額、決算を見込んで動力費を569万円減額します。2項営業外費用、1目支払利息及び企業債取扱諸費については、決算を見込んで企業債支払利息を400万円減額しております。収入につきましては、2項営業外収益、2目他会計負担金を1,269万円減額、3目他会計補助金を400万円減額しております。これらの減額は、支出の減額に伴うものです。では、1ページにお戻りください。第4条、資本的収入及び支出の補正について説明します。これについては、最初に説明した第2条、業務予定量の補正とも関連しますので併せて説明をいたします。収入については、1款資本的収入、1項企業債を1億6,150万円減額して7億5,120万円へ減額補正、2項出資金は1,022万円減額して1億7,484万2,000円に減額補正、3項補助金1億7,840万円を減額して2億8,760万円へ減額補正とし資本的収入のトータルは、3億5,012万円減額し

て12億3,164万2,000円となります。2ページをお開きください。支出については、1款資本的支出、1項建設改良費を3億5,012万円減額して7億8,879万1,000円となり、資本的支出についても同額の減額となり20億5,019万7,000円となります。第5条、企業債の補正についても第4条に関連しますので、併せて説明いたします。起債の目的は「公共下水道事業債」で1億6,150万円を減額し、4億350万円にしております。それでは、13ページを御覧ください。最初に支出について内容を説明します。1項建設改良費、1目公共下水道建設費につきましては、冒頭申し上げたとおり国庫補助金の内示減額及び国の1号補正予算による事業費の増額に伴う事業費の調整により、全体で3億5,012万円の減額補正をしております。補正内容の詳細は、委託料1億2,700万7,000円の減額、工事請負費については、2億4,047万5,000円の減額、補償金については、1,736万2,000円の増額となっております。国庫補助金の内示率は、社会資本整備総合交付金が81.0%、防災安全交付金が52.7%となっております。収入につきましては、今、説明したものを相対的に財源ごとに振り分けた補正としており、1項1目企業債を1億6,150万円の減額、2項1目他会計出資金を1,022万円減額、3項1目国庫補助金を1億7,840万円の減額をして資本的収入については、総額3億5,012万円の減額補正としております。1ページにお戻りください。今、説明した内容を第2条の(4)主な建設改良事業の事業ごとに説明いたしますと、当初予算から管渠建設事業が1億5,260万5,000円減額し3億6,660万8,000円、ポンプ場建設事業を当初予算から6,895万円減額の1億505万円、処理場建設事業を1億2,856万5,000円減額の2億5,263万5,000円としており、全ての事業で減額としております。以上が補正予算(第3回)の第1条から第6条までの説明となります。引き続き、先ほど説明した補正予算に関する説明書について、簡潔に概略説明いたします。4、5ページをお開きください。ここには、第3条、第4条で説明した収益的収支、資本的収支の実施計画が掲載されています。金額は、

先ほど説明したとおりです。6ページには予定キャッシュ・フロー計算書を掲載しております。8、9ページには予定貸借対照表、10ページには予定損益計算書を掲載しており、両方とも税抜きで示しております。12ページ以降の説明資料につきましては、冒頭説明しました3条、4条の補正予算明細書が掲載されております。以上が山陽小野田市下水道事業会計補正予算（第3回）の説明となります。御審査のほどよろしくお願いたします

藤岡修美委員長 執行部の説明が終わりましたので、委員の質疑に移りたいと思います。補正予算書1ページ、2ページ。

福田勝政委員 1ページの委託料で不明水調査委託料がありますが、不明水とはどういう水ですか。

中村下水道課長 今、工事して設置している管渠から普通は皆さんが利用された汚水が流れてくるんですが、それ以外の分からない水が管渠の老朽化とかで流れてきます。それが不明水になります。

藤岡修美委員長 ほかに。（「なし」と呼ぶ者あり）それでは、4ページ、5ページ、収益的収入及び支出と資本的収入及び支出。4ページの支出で、3目の処理場費、委託料動力費の減1,069万円。これの内訳と中身について説明をお願いしますか。

岡村下水道課管理係長 処理場費の減額内容についてですが、まず、施設等維持管理委託料は処理場を業者に維持管理を委託しているものですが、これが落札減によって500万円減額しました。そして、小野田、山陽のそれぞれの処理場の動力費は維持管理のために機械等を動かすための必要な電力電気料です。こちらの動力費を、小野田の処理場において420万円、山陽の処理場において149万円それぞれ決算を見込んで減額したものでございます。

恒松恵子副委員長 決算を見込んで減額とのことでしたが、減額の理由は分かりますか。

岡村下水道課管理係長 当初予算を組んだときに、社会情勢として、戦争等で燃料費が高騰していたり、物価上昇が見込まれていたりということで、動力費を予算不足に陥らないように多めにというか少し余裕をもっていました。ただ、実際今年度それぞれの維持管理をしていく中で不用額が発生すると見込まれたので、このたびの補正で減額するものでございます。

中村博行委員 その下の企業債の利息が400万円減額となっていますけど、これは利率が変わったといったような原因が何かあるんですか。

原田下水道課管理係主任 企業債への利息の400万円の減ですが、こちらは令和6年度の予算を組む際に、まだ、令和5年度の企業債をまだ借り入れていないものが多数ありました。近年、利息の率の上昇も非常に幅が大きいので、こちらも予算不足に陥らないために、余裕を持った予算設定をしておりましたが、決算を見込んでそこまでの経費が不要となるのでこのたび補正で減額しております。

藤岡修美委員長 よろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）4ページ、5ページ。（「なし」と呼ぶ者あり）6ページ予定キャッシュ・フロー計算書。よろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）8ページ、9ページ予定貸借対照表はよろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）10ページ予定損益計算書はよろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）12ページ、13ページ補正予算の明細書。いいですか。支出の管渠費の委託料、不明水調査委託料。この減額の理由は落札減ですか。

勝根下水道課維持係主任 おっしゃるとおり、不明水調査の減額の理由は、落

札減にあります。今年度、南松浜地区の不明水調査をしておりまして、そちらだけで当初設計ではほとんど満額に近い額を使用する計画になっておりましたが、6割程度の落札率でしたので、追加で調査を今回実施させていただいております。

藤岡修美委員長 同じく支出の3目の処理場費で、動力費がかなりの減額になっていきますけども、これは処理水量が減ったからですか。

岡村下水道課管理係長 先ほど御説明いたしましたとおり、動力費については、燃料費の高騰等で予算不足が生じる可能性があるというところで、令和6年度の当初予算に余裕を持って予算を組んでおりましたが、実際には維持管理を行っていく中でそこまで費用がかからなかったというところで、決算を見込んで減額するものでございます。

藤岡修美委員長 ほかによろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）13ページ資本的収入及び支出はよろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）以上で質疑を終わります。これより討論を行います。討論はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）討論を終わります。これより議案第8号令和6年度山陽小野田市下水道事業会計補正予算第3回について採決をいたします。本件に賛成の委員の挙手を求めます。

（賛成者挙手）

藤岡修美委員長 全員賛成により本件は可決すべきものと決しました。ここで暫時休憩といたします。

午前10時40分 休憩

午後1時35分 再開

藤岡修美委員長 それでは、委員会を再開します。議案第4号令和6年度山陽小野田市小型自動車競走事業特別会計補正予算（第4回）について、執行部の説明を求めます。

木村公営競技事務所長 それでは、議案第4号令和6年度山陽小野田市小型自動車競走事業特別会計補正予算（第4回）について、御説明をいたします。今回の補正は、決算を見込んで、ミッドナイトレースの発売収入を増額し、それに連動する主な予算額を調整するものであります。最初に予算書の1ページをお願いします。歳入歳出それぞれ10億9,000万円を追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ280億8,000万4,000円とするものであります。それでは、最初に歳入から説明いたします。5、6ページをお願いします。1款1項2目勝車投票券発売収入は、ミッドナイトレースの発売収入を10億9,000万円増額しています。増額の要因は、この令和6年度から取り組みを始めました、これまでの最終レースの発走時間を10分から1時間延長するレースがファンに少しずつ受け入れられてきたことと、他競技が全て終了した時間帯での締切・発走が数レースあることで、発売が重複しないことが影響しているものと考えております。補正額につきましては、この発売実績の流れと今後のレース日程も念頭に計上しております。続きまして、歳出について御説明いたします。同じく5、6ページになります。1款1項1目一般管理費は、24節積立金を9,800万円増額するもので、施設改善基金に積み立てるものです。この金額が、このたびの補正により生じる純利益になります。この積立てにより、今年度末の予算上の施設改善基金残高見込額は、約26億2万2,000円となります。続きまして、1款2項1目事業費は、ミッドナイトレース発売収入の増額補正に連動して各予算を増額するものです。まず、12節委託料の上段、包括的民間委託料2,143万8,000円の増額は、委託先の株式会社JPFに支払うもので、補正後の包括委託料は、7億192万9,000円となります。次に下段のインターネット投票業務委託料1億8,1

49万9,000円の増額は、民間ポータルサイト4者に支払う委託料になります。次に18節負担金、補助及び交付金2,573万4,000円の増額は、JKA交付金で、規定に基づき支出するものであります。続きまして、1款2項3目21節、補償、補填及び賠償金の7億6,300万円の増額は、勝車投票券払戻金で、発売収入の70%を計上しております。最後に、4款1項1目予備費を32万9,000円増額し、8,000万円に調整しております。予算については以上ですが、委員会に提出している資料の説明をさせていただきます。続きまして、お配りしております資料1を御覧ください。これは、令和6年度の車券売上金額等の集計表で、1月末現在のものであります。グレードレース、日中開催、ナイター開催、ミッドナイト開催、重勝式のすべてを含んだ集計表で、黄色枠が山陽場であります。総車券売上額の日平均は、1億6,250万5,600円で、対前年度費115.4%となっております。続きまして、資料2を御覧ください。こちらは、別枠開催のみでいわゆる通常ミッドとオーバーミッドのみを計上している集計表になります。黄色枠の山陽場ですが、一日平均1億4,231万4,800円で対前年度比134.1%と、大きな売上げ増となっております。今回の補正は、この数字を参考にしておりますが、日によって売上げの増減がかなりありますので、予測は非常に難しいものとなっております。続きまして、資料3を御覧ください。今回の補正後の予算をその性質により大きく三つにグループ分けをし、それぞれの収支を仕分けた表になります。今回の補正により金額が変更となる項目は、表の左端に米印を付した箇所になります。まず1番、開催に係る収支では、上から本場開催発売金、義務的経費の払戻金、JKA交付金、その他開催経費、包括的民間委託料を増額しています。次の2番、開催以外に係る収支においては、施設改善基金を増額しております。今回の補正により生じた純利益を基金へ積み立てますので、下から2番目の実質収支改善額は、10億8,475万9,000円と見込んでおります。補正予算の説明は、以上でございます。御審査のほどよろしくお願いいたします。

藤岡修美委員長 執行部の説明が終わりましたので、質疑に入りたいと思います。

中村博行委員 勝車投票券の払戻率は、ずっと70%という状況が続いていると思うんです。当初は75%でしたね。これはこのままずっと70%で続けるということによろしいですか。

大下公営競技事務所副所長 平成24年度に75%から70%に改正していただいて、30%ほど頂いています。これをまた上げるのか、下げるのかというのは今のところ何とも言えないのですが、これ以上下げることは、収支状況から非常に考えにくく、国も簡単に下げるのは難しいと考えていると思っています。

福田勝政委員 資料3の時効収入についてです。これは当たったが引き換えに来なかったものの時効ということですか。

大下公営競技事務所副所長 的中券の有効期日は60日ですので、60日を経過した時点で時効が到来します。会計上は時効収入という形で処理しております。

福田勝政委員 時効は10年ではないのですか。

大下公営競技事務所副所長 的中券の確定日の翌日から起算して60日間です。

藤岡修美委員長 ほかに質疑はありますか。（「なし」と呼ぶ者あり）以上で質疑を終わります。これより討論を行います。討論はありますか。（「なし」と呼ぶ者あり）討論なしと認めます。これより、議案第4号令和6年度山陽小野田市小型自動車競走事業特別会計補正予算（第4回）について採決いたします。本件に賛成の委員の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

藤岡修美委員長 全員賛成により本件は可決すべきものと決定しました。以上
で産業建設常任委員会を閉会いたします。

午後 1 時 4 5 分 散会

令和 7 年 (2025 年) 2 月 2 5 日

産業建設常任委員会委員長 藤 岡 修 美